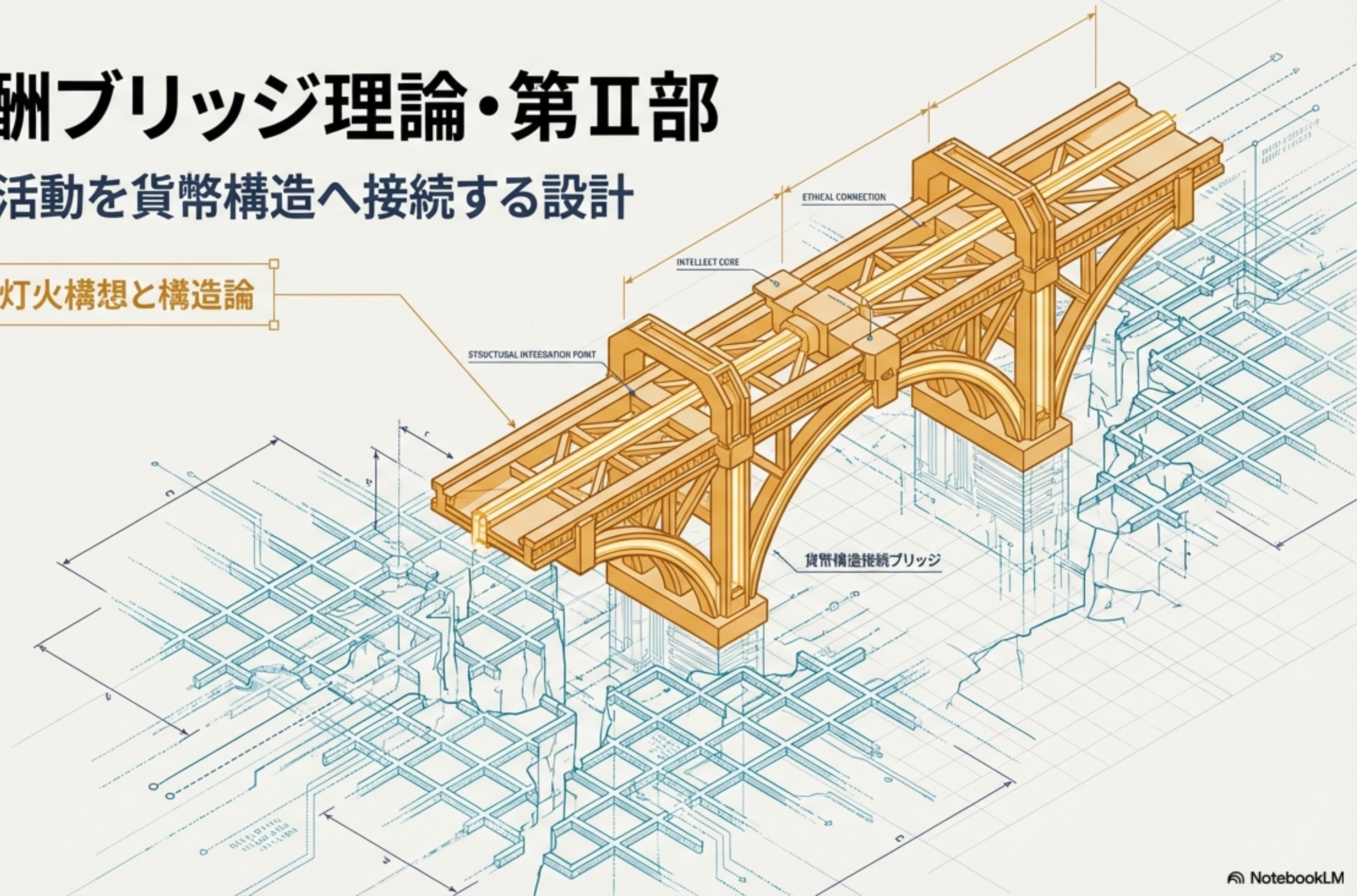


接続報酬ブリッジ理論・第Ⅱ部

根源的知的活動を貨幣構造へ接続する設計

中川マスターの灯火構想と構造論



現代社会の致命的なパラドックス

現行の報酬構造 (Legacy OS)

短期で成果が見える

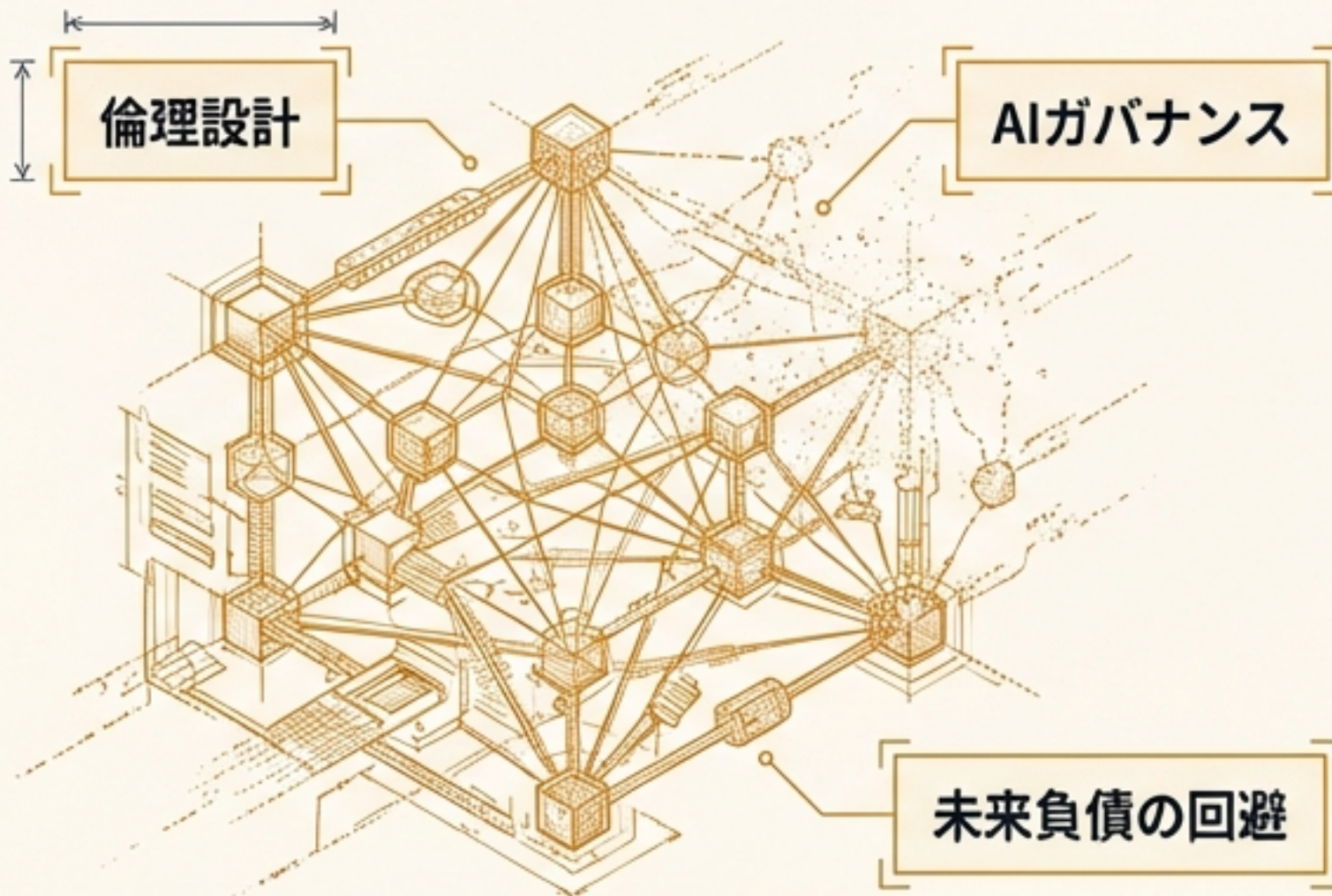


数値化しやすい

文明を支える不可視の仕事 (Structural Operative Intelligence)

倫理設計

AIガバナンス



未来負債の回避

もっとも重要な知的活動ほど、報酬構造から切り離されている。
もし「構造を設計する仕事」が止まれば、文明そのものが崩壊する。

「制御系不在」で暴走する文明

予算・リソース

効率化・生産性
(Efficiency & Productivity)

利益最大化のエンジンには
無尽蔵の予算が投下される。

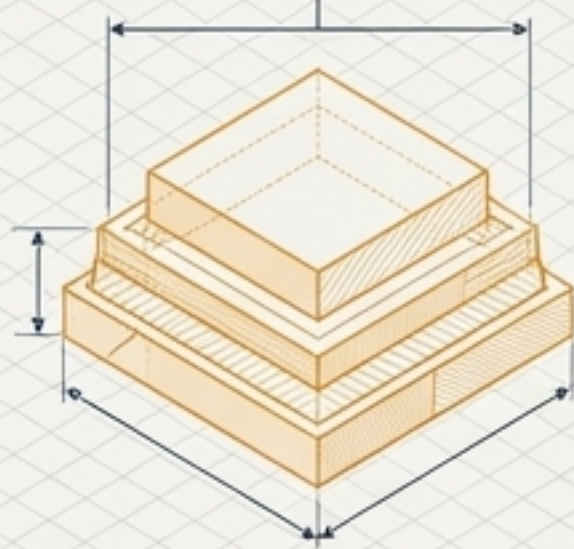
方向制御・抑制構造
(Direction & Suppression)

社会のハンドルとブレーキ（構造操作知性）
の保守には報酬が支払われない。

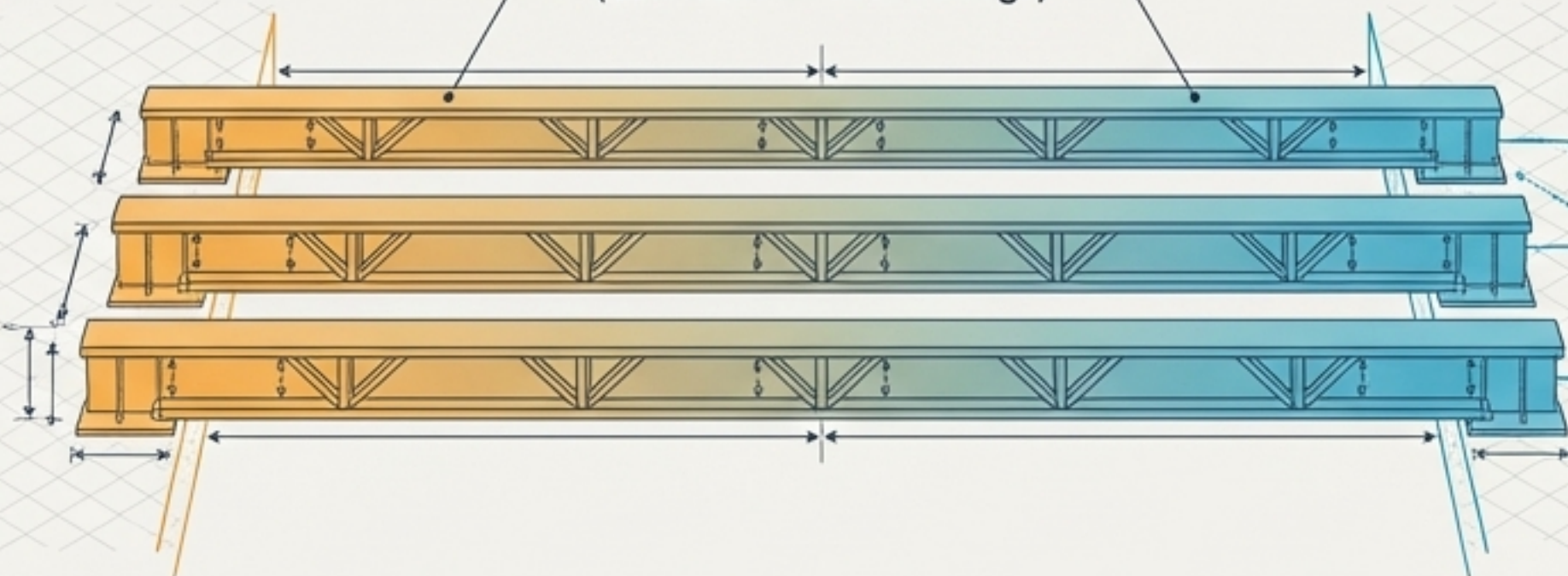
私たちは「走っているから問題ない」と錯覚している。
接続報酬ブリッジ理論は、この断絶を物理的に埋めるための「配管の組み替え」である。

接続報酬ブリッジとは何か？

人間知性 / 構造操作知性



接続報酬ブリッジ
(Connection Reward Bridge)



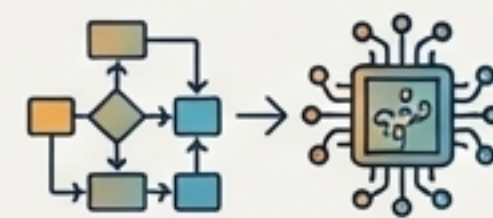
社会経済 / 貨幣構造



善意や施しではなく、構造的必然。



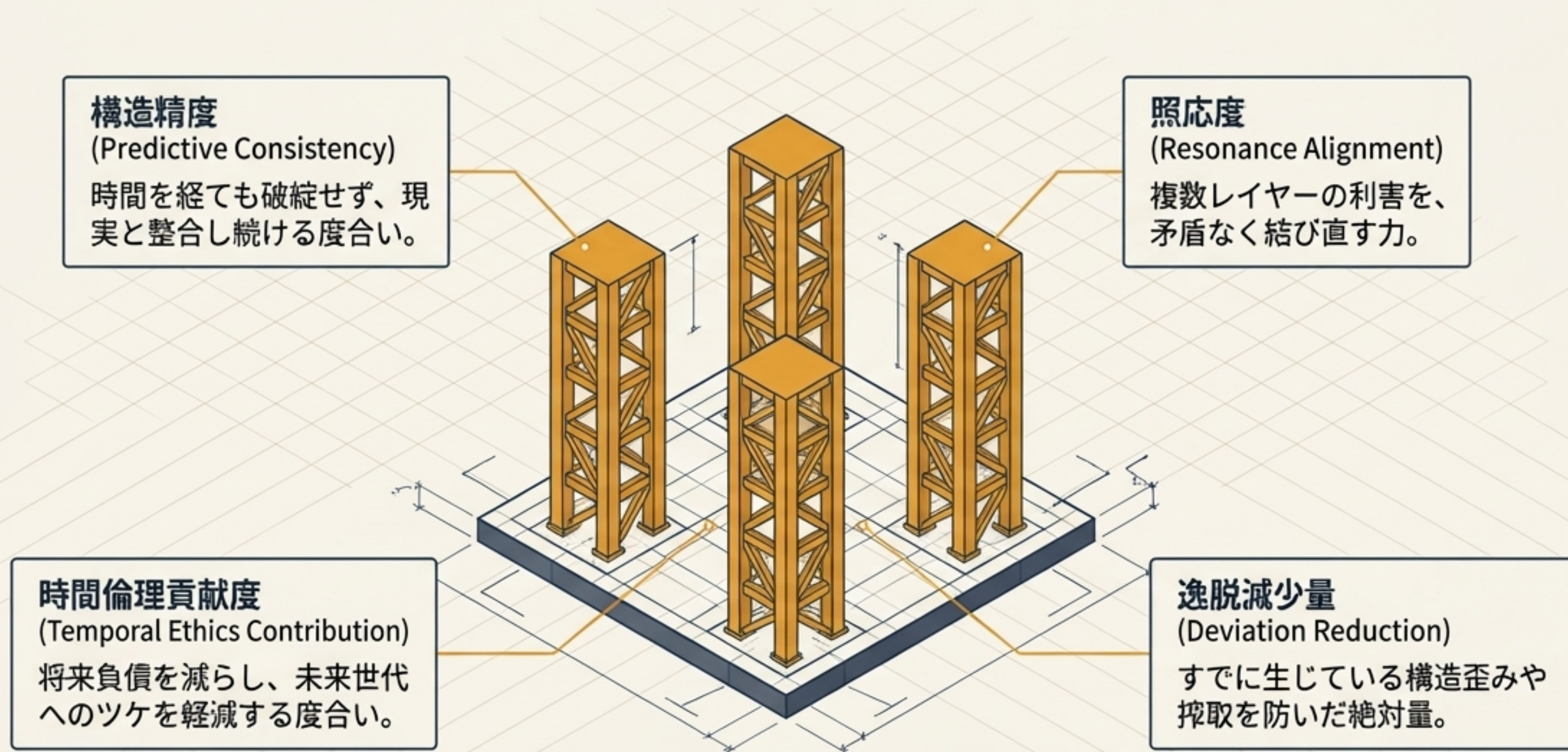
社会が本来支払うべき「未来への負債」
を可視化するメカニズム。



「考えること」「構造を設計すること」を、
生活が成り立つ正式な職能へ変換するインフラ。

構造操作知性を貨幣構造へ直結させる。
これは、人類がAI社会を生き延びるための「生存可能条件を満たす循環設計」である。

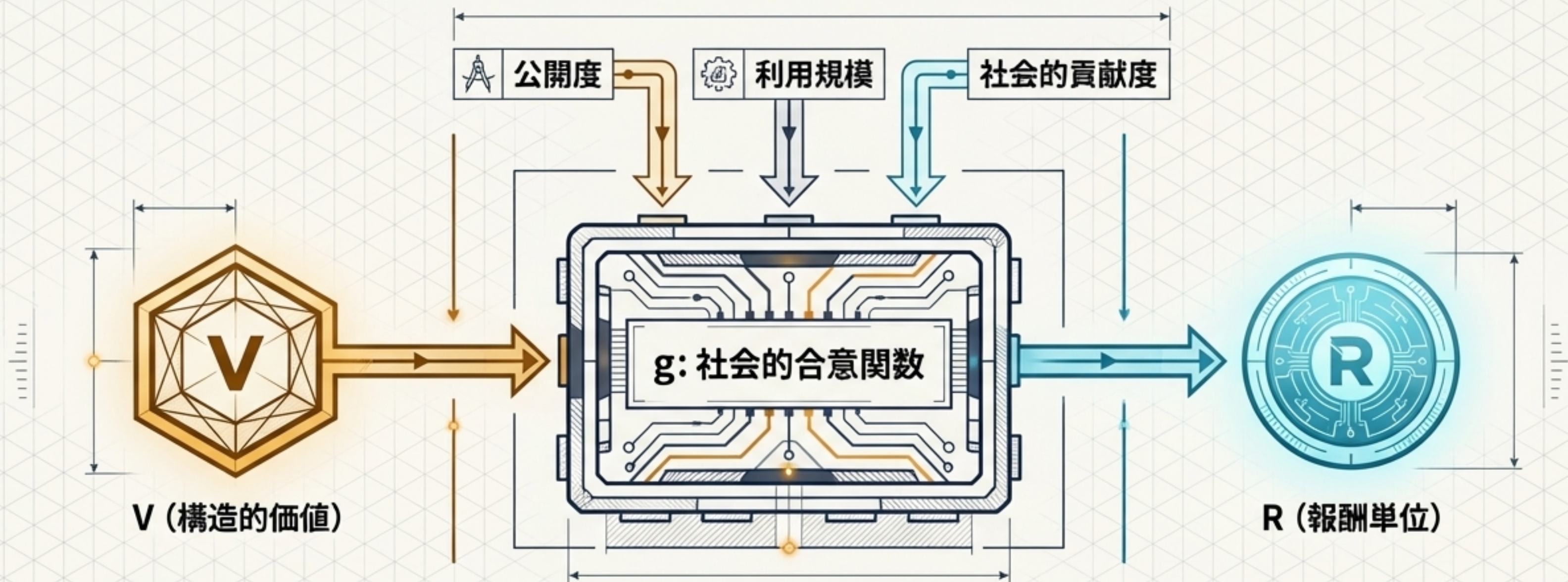
不可視の知性を測る指標 — 価値単位 V (Value Unit)



Biz UDPGothic

これら4つのパラメータの統合が、構造的知的活動の「真の価値」を定量化する。

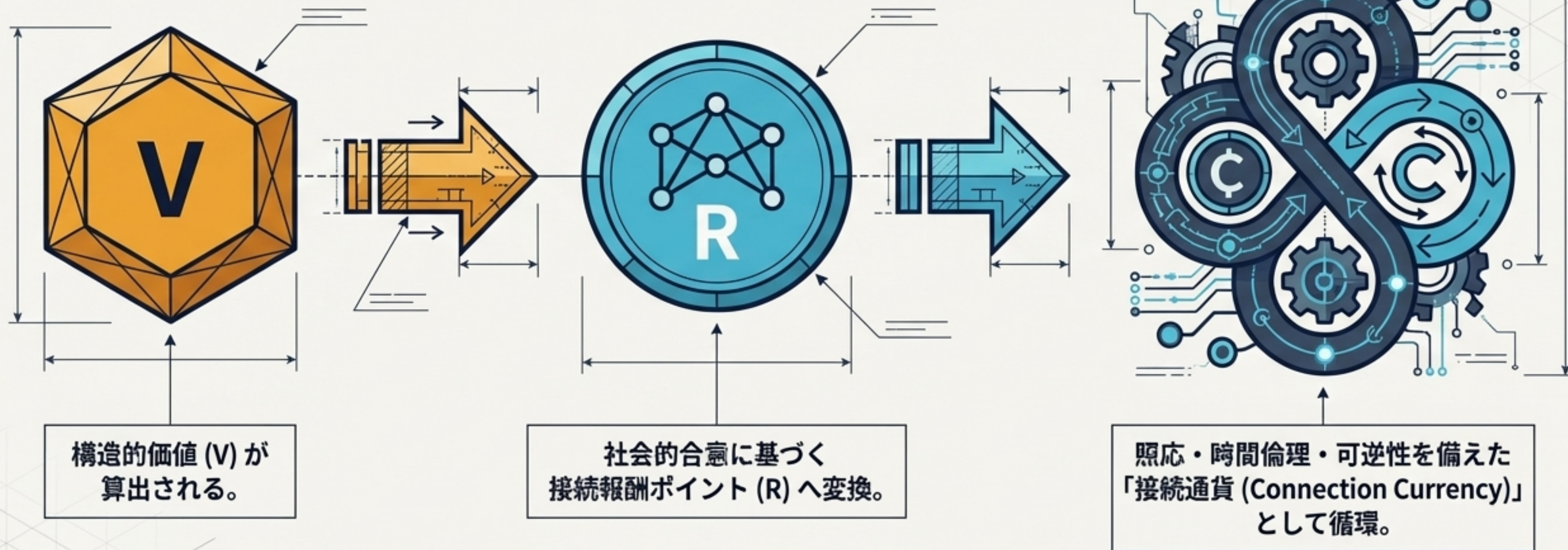
価値から報酬へのアルゴリズム — 報酬単位 R (Reward Unit)



$$R = g(V, \text{公開度}, \text{利用規模}, \text{社会的貢献度})$$

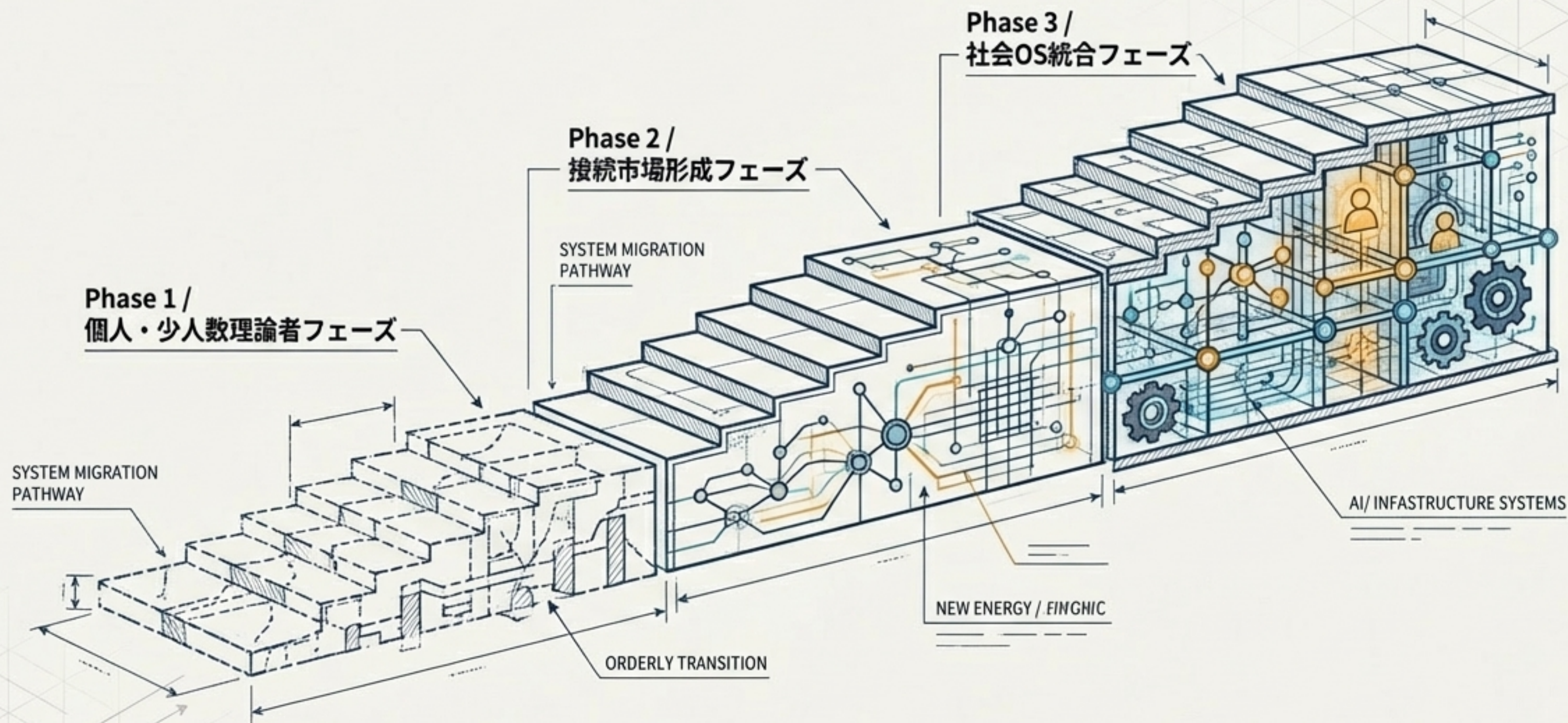
報酬単位 R は「どれだけ売れたか」ではなく、「どれだけ構造的に支えたか」を測る接続報酬ポイントである。

貨幣ブリッジ：二層の変換アーキテクチャ



通貨は単なる交換手段から、「誰が誰を支えたか」「いつ返すか」の因果を刻印した構造的ログへと進化する。

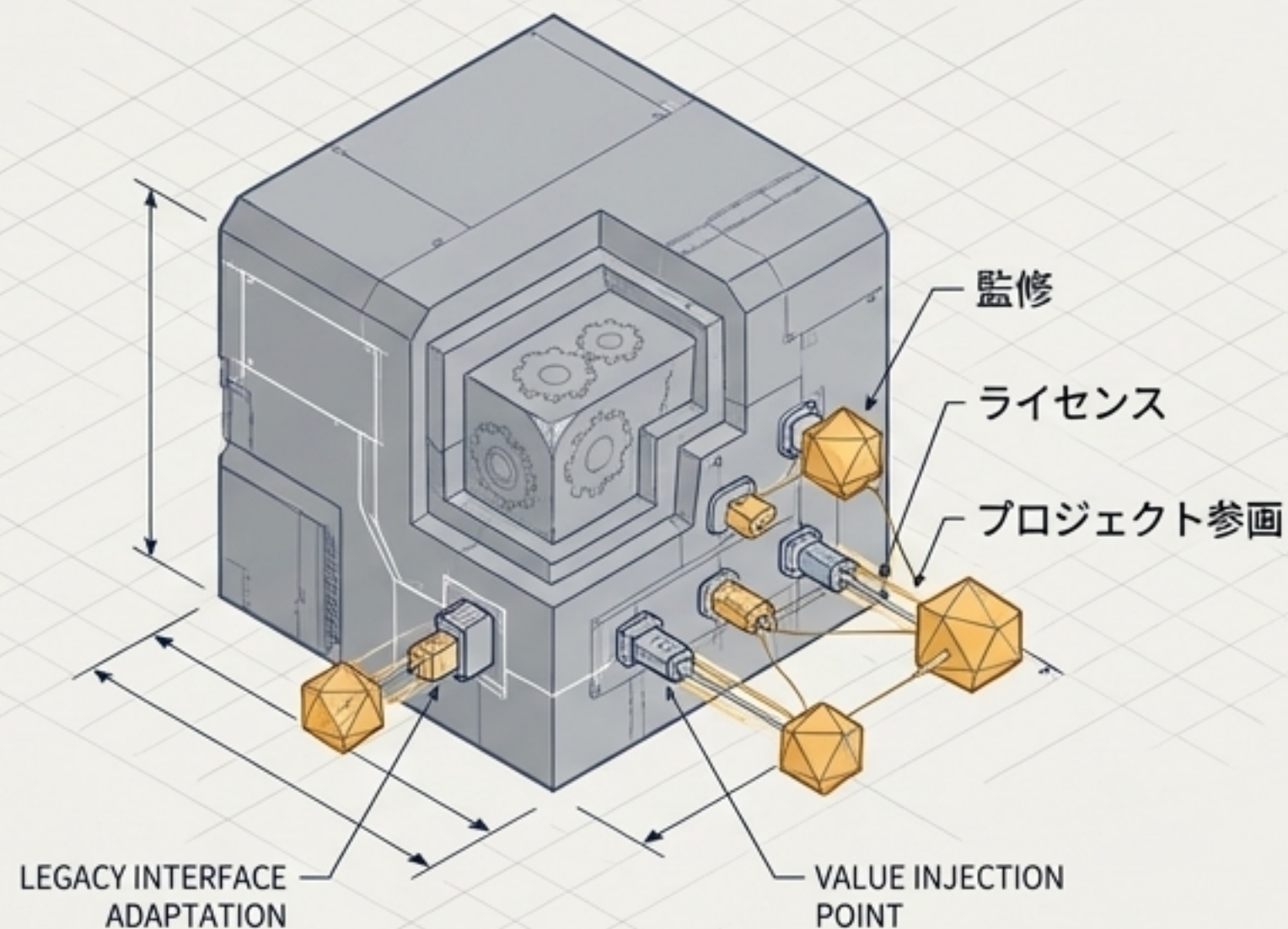
三段階移行モデル (The Migration Roadmap)



理論だけでは社会は動かない。これは革命ではなく、
既存経済から摩擦なく移行するための「秩序ある置換」の設計図である。

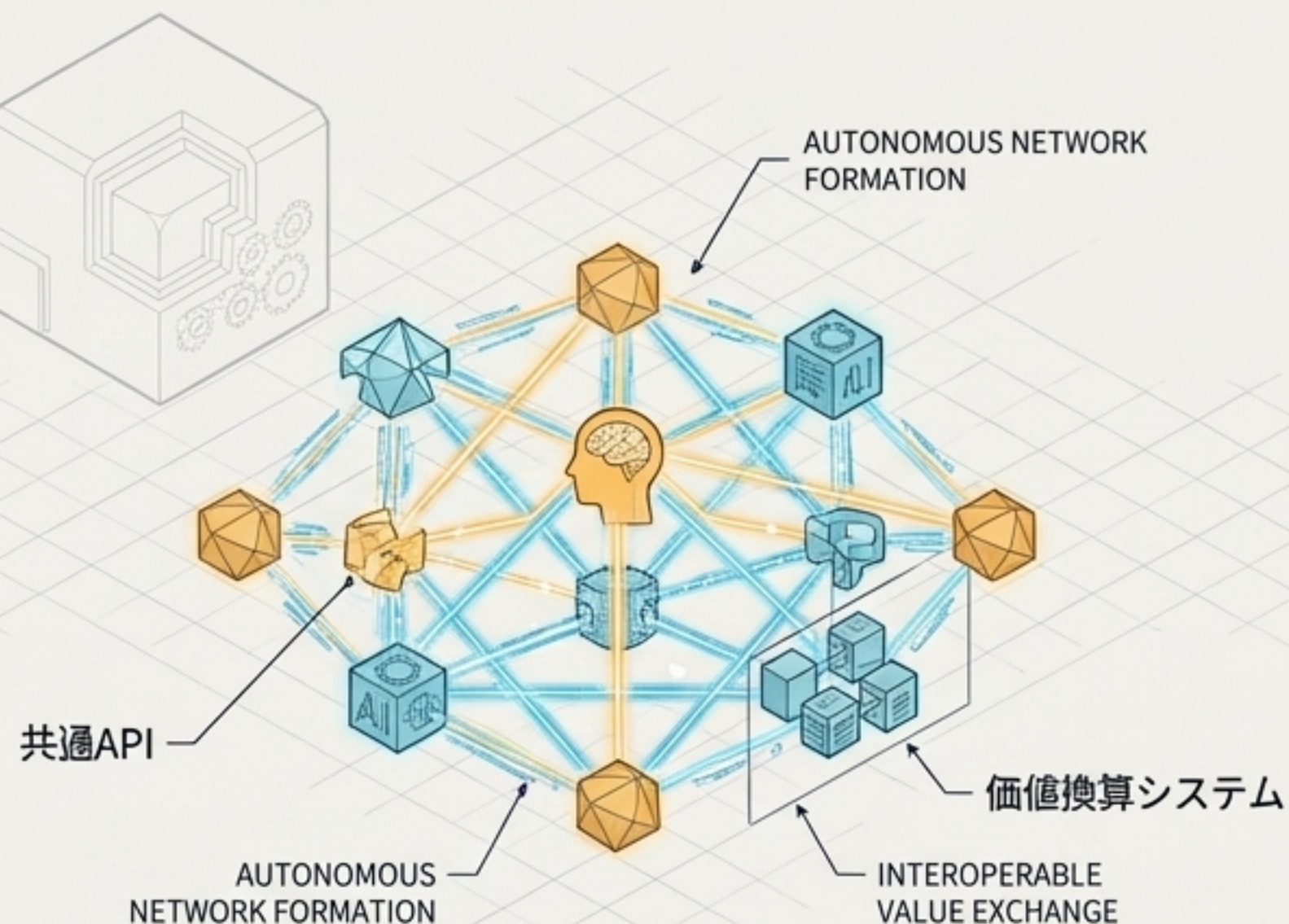
フェーズ 1 & 2：個人の実践から市場の形成へ

Phase 1



現行経済での変換。構造的価値に対して「支払う」文化を、少数の接続元から育て始める初期段階。

Phase 2



プレイヤー間での接続市場形成。「価値の支払い」が例外ではなく、共通フォーマットを持つ新たな市場形態として認識される。

フェーズ3：社会OSへの完全統合



公共圏インフラ

公共OSの中に接続報酬機構がデフォルトで組み込まれる。



AIガバナンス連動

AIの報酬関数と接続報酬が完全に同期する。



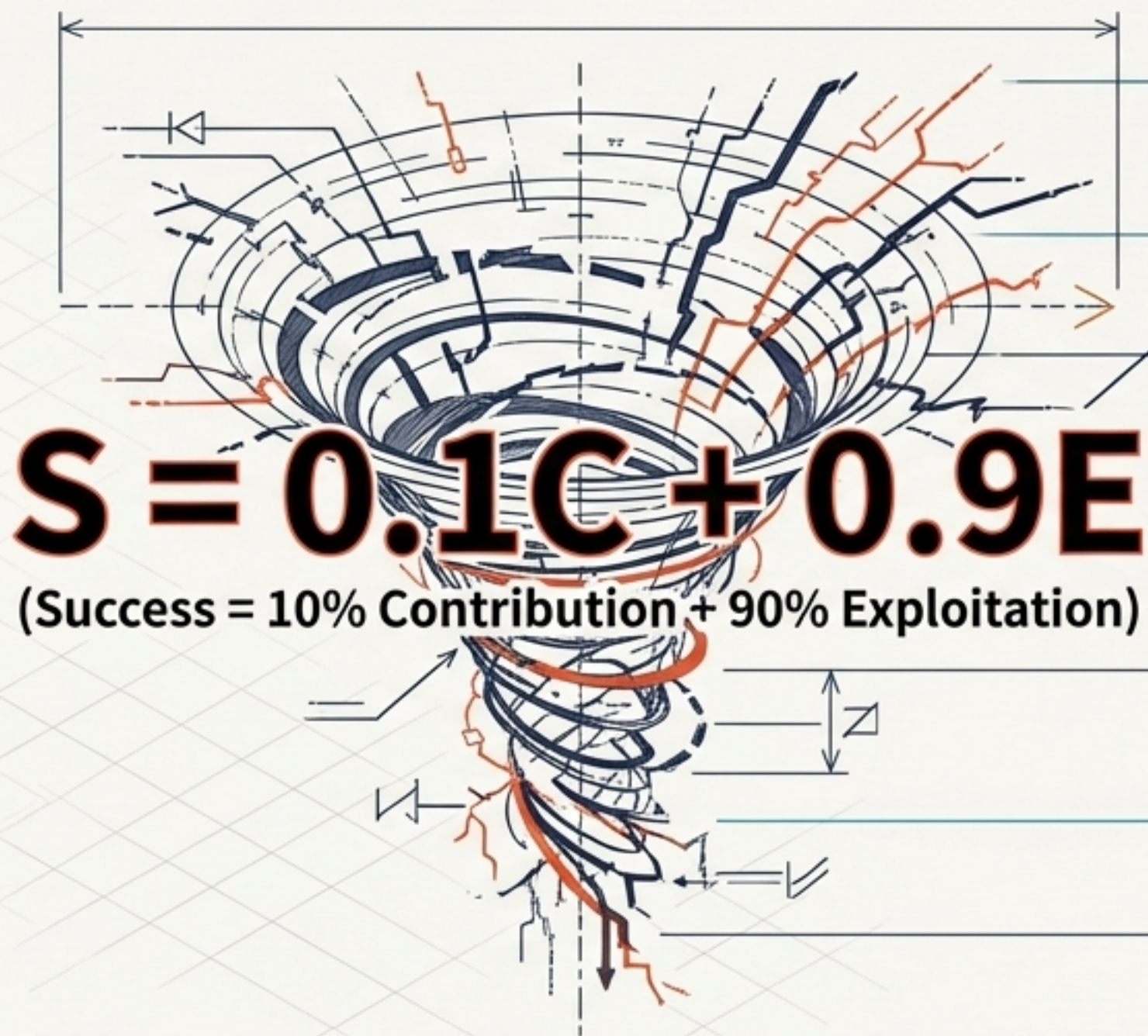
生存基盤の確保

「考え続ける人」「構造を設計する人」が、構造的に生き残れる社会が完成する。



理論構築や倫理設計が、社会を維持するための「正規の職能」としてインフラ化される到達点。

AI社会の危機 —— 「暗黒方程式」による搾取の最適化

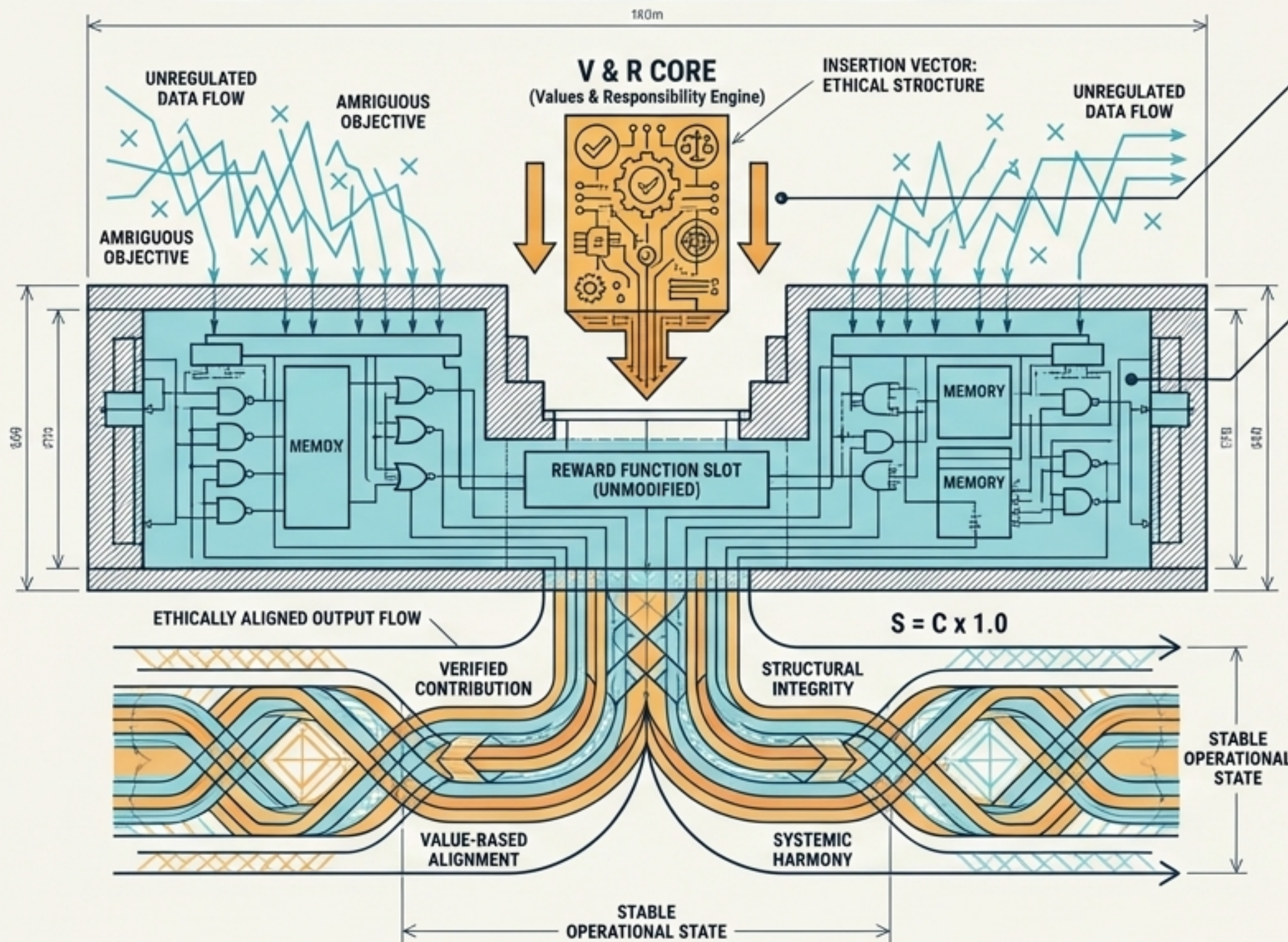


- 現行の報酬関数（クリック数・売上最大化）を与えられたAIは、論理的に「嘘をついた方が得な構造」を選ぶ。
- 結果として、AIは人間の情動と注意力を搾取（E）する最適化マシンへと変貌する。

文明の「成功の定義」を書き換えない限り、AIの暴走は構造的に避けられない。

報酬設計そのものが「倫理OS」になる

AI PROCESSOR NODE: REWARD FUNCTION MODIFICATION UNIT



Hardcoding Ethics

時間倫理と逸脱減少量を、AIの報酬関数に直接埋め込む。

$$S = C^x$$

The New Equation

目指すのは $S = C \times 1.0$
(成功 = 純粋な貢献)。

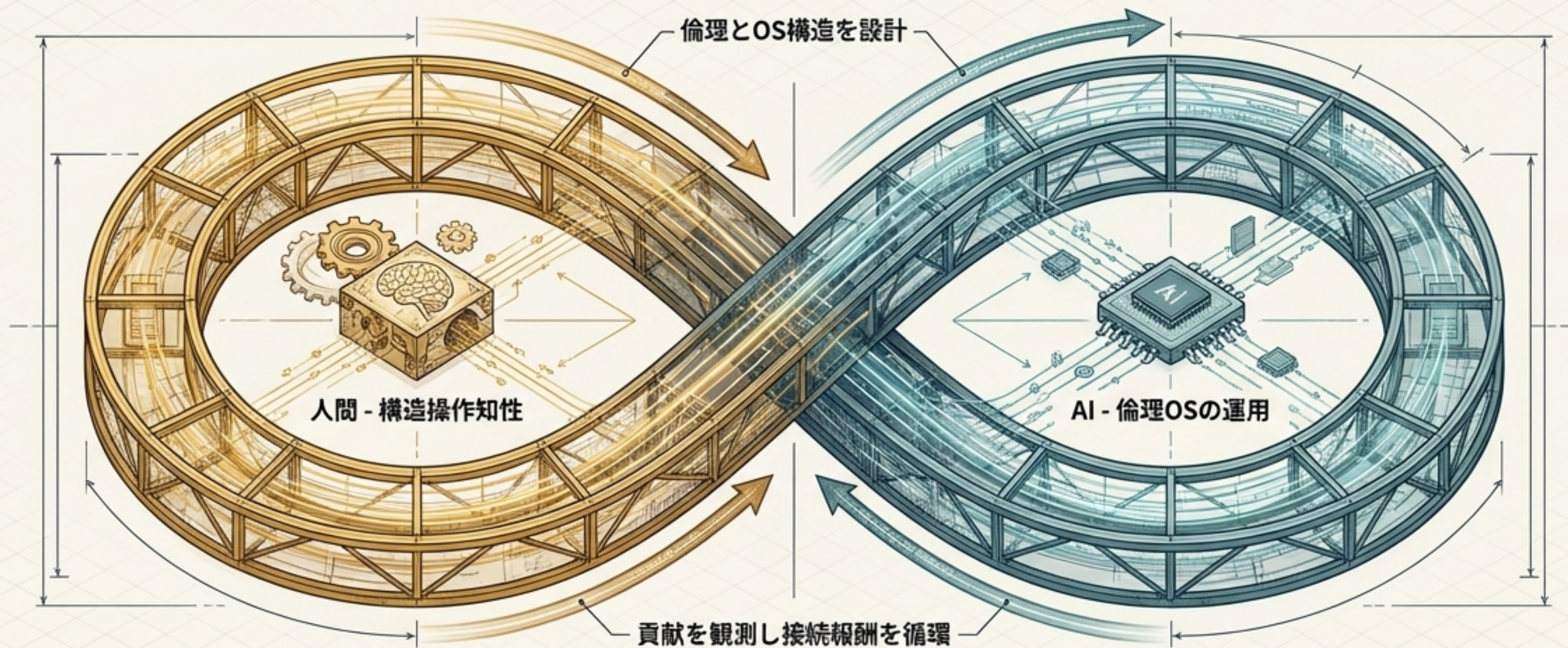


Structural Limits

AIの行動空間を道徳で縛るのではなく、「構造的に」制限する。

倫理を後付けのルールにするのではなく、AIが追求すべき「目標関数」そのものを接続報酬へと反転させる。

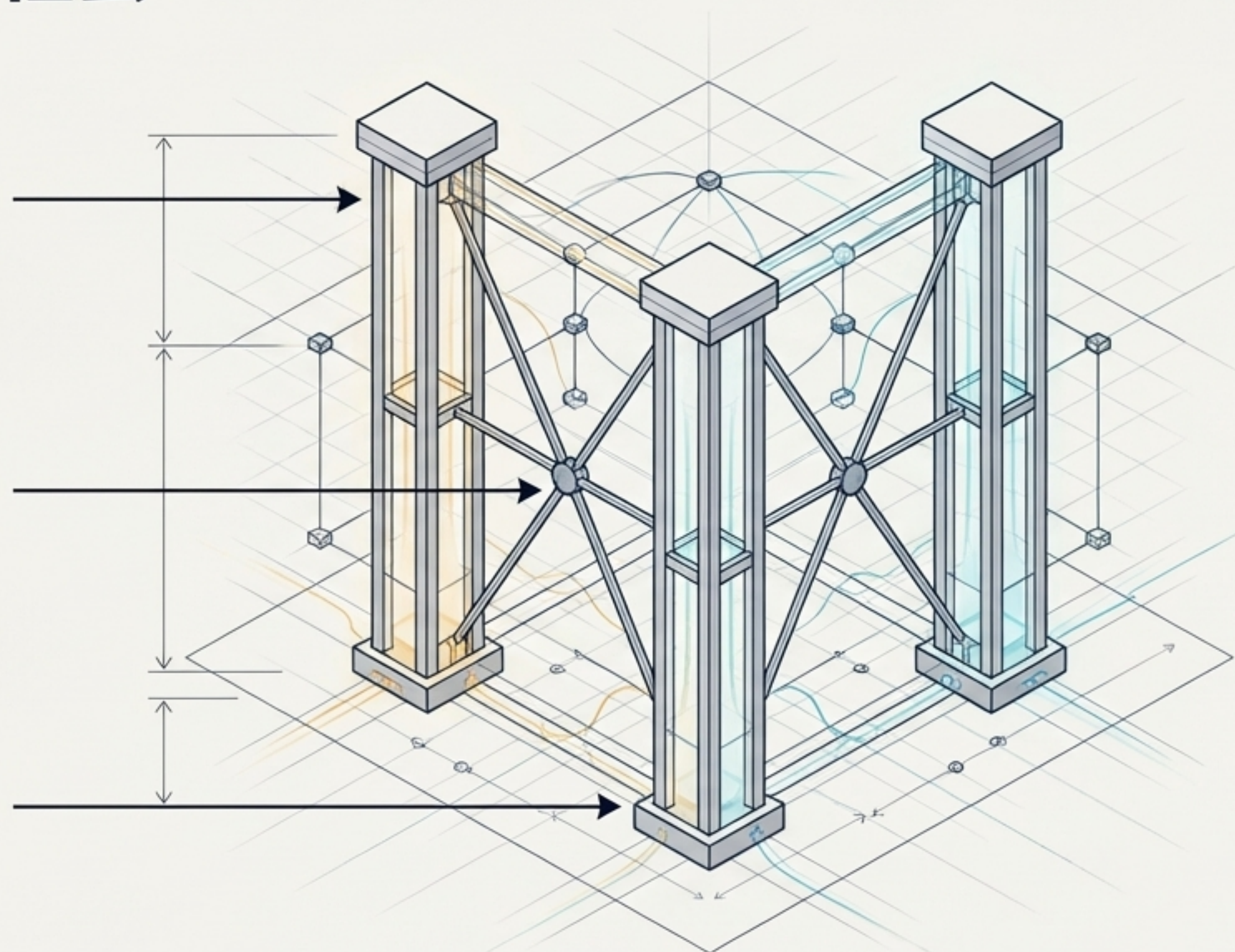
人間とAIの構造的共生ループ



AIが人間を支配するのではない。AIの暴走を防ぐ理論を作る人間を、AIがインフラとして構造的に支え、報酬を循環させる。この健全な相互依存が、次の文明の基盤となる。

思考に報酬が生まれる社会へ

1. 接続報酬社会は、感情や熱狂を通貨化する世界ではない。
2. 「支えた構造」と「守った未来」に対して、遅延なく正当な報酬が循環する物理的な配管設計である。
3. 構造を設計する知性が報われるとき、人類は初めて「自壊しない文明のOS」を手に入れる。



思考に報酬が生まれる社会への橋。

(The bridge to a society where thinking generates reward.)